

大学連携型ふくおか版CCRC 「生涯活躍のまち」構築に向けて

～高齢者のQOL「生活の質の向上」を目指して～

◎大学連携型北九州市版CCRCとは？

CCRC(Continuing Care Retirement Community)構想とは、「大都市圏をはじめとする高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくり」を目指すものです。

COC+事業の一環として、平成27年度から九州歯科大学(歯科・口腔保健)が中心となり、西南女学院大学(看護・福祉・栄養)と西日本工業大学(建築・デザイン)との3大学連携のもと「大学連携型北九州市版CCRC」の構築に取り組んでおり、将来的には「ふくおか版CCRC」に発展させることを目指しています。

具体的には、高齢者の健全な「食」と「住」環境づくりのため、摂食嚥下、食と健康、暮らしの支え合い、栄養支援及び安全で快適な食卓を含む住居デザインに係る実践的教育を行うとともに、各大学が有する社会資源(医療・教育機能)を活用した協働地域におけるCCRCの構築を行い、高齢者のQOL(Quality of Life)向上を志向した、新たな産業の創出を目指します。

また、本事業をモデルケースとして産業化フローを確立し、将来的には、福岡県全域に拡充した「ふくおか版CCRC」の構築を目指し、福岡県全域において、若年者にも高齢者にも魅力あるまちづくりを推進する計画です。さらに、オールフクオカ体制で、高齢者のQOL向上を志向する産業の創生及び雇用の拡大を可能とする環境を整備することも目指しています。

◎COC+(シーオーシープラス)とは？

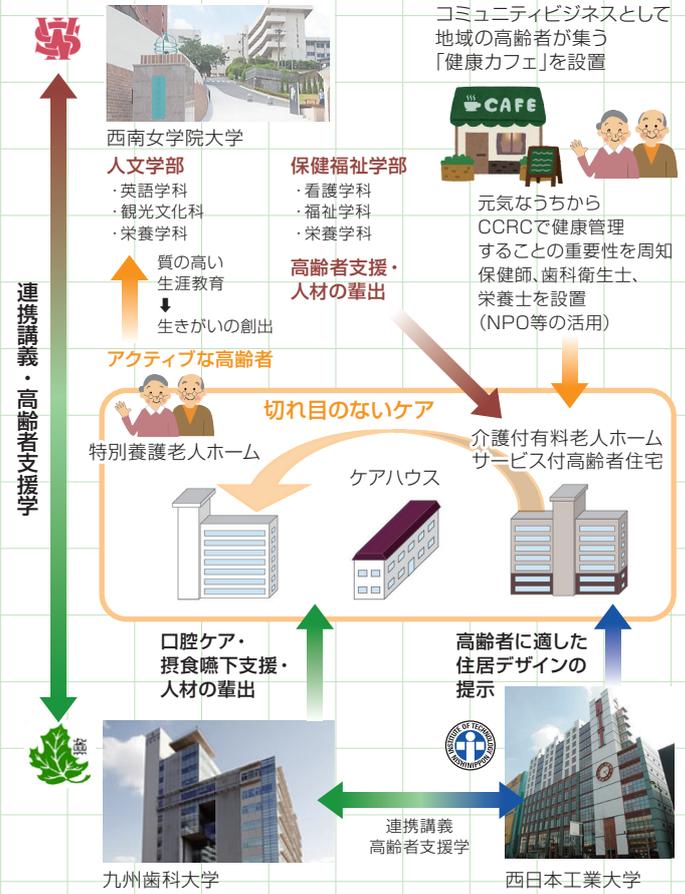
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+(Center of Community Plus))」とは、大学が地方公共団体や企業などと協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出と、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を推進する取組を支援する文部科学省の事業です。

この度、北九州市立大学が代表大学として申請した「「北九州・下関まなびとぴあ」を核とした地方創生モデルの構築」事業がCOC+に採択されました。

本事業は、総務省の「新たな広域連携モデル構築事業」指定地域である北九州市と下関市からなる関門地域が対象で、当該地域の13大学・高専と3つの自治体、3つの経済団体が一丸となって「北九州・下関まなびとぴあ」を組織し、自治体の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を強力に後押しし、本地域における学生の地元定着などを推進する計画です。

【お問い合わせ先】

九州歯科大学COCプラスプロジェクト運営センター
TEL.093-285-3114 〒803-8580 北九州市小倉区真鶴 2-6-1



〒803-8787 北九州市小倉北区室町1-2-11
JR小倉駅より徒歩15分/JR西小倉駅より徒歩3分